

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)	授業形式										
E112N002		英語科授業論 (Practical Theory of English Language Teaching)																
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員												
必修	2	3	教育学部 令和2年度 以降入学生用			氏名 大谷 由布子 E-mail otaniyuko@oita-u.ac.jp 内線 7580												
授業の概要	英語の学習・指導・評価方法に関する知識・理解を深め、実践的な英語指導の基礎を身に付ける。授業では、講義だけでなく、ペアやグループに分かれて、ディスカッションやデモレッションを行う。																	
具体的な到達目標							DP等の対応(別表参照)	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	
目標1 学習指導要領や教科書、学習者の特性について理解し、実践に関連付けることができる。																		
目標2 英語教育実践に必要な基本的な指導技術を身に付け、デモレッションで活用することができる。																		
目標3 生徒の理解に応じて調整しつつ、英語で授業ができるようになる。																		
目標4																		
目標5																		
目標6																		
目標7																		
目標8																		
目標9																		
目標10																		
授業の内容																		
1 ガイダンス																		
2 世界の英語教育、日本の外国語教育																		
3 学習指導要領とカリキュラム																		
4 外国語教育の目標と評価																		
5 コミュニケーション能力と言語活動																		
6 ティームティーチング(デモレッション)																		
7 教科書と教材																		
8 単元指導計画の作成																		
9 学習指導案の作成																		
10 第二言語習得研究の応用																		
11 技能統合型の指導(デモレッション)																		
12 学習者特性と学習方略																		
13 英語教育におけるユニバーサルデザイン																		
14 英語教師としての成長																		
15 まとめと振り返り																		
ラ ア ク ニ テ ン イ グ レ ブ	A:知識の定着・確認	予習と復習を通して、省察・考察を深める。学習した内容をデモレッションに応用する。					工 夫 そ の 他 の											
時間外学修の内容と時間の目安	準備学修	予習課題への取組(1時間)																
	事後学修	学習内容の見直しと振り返りノートへの記入、課題への取組(1時間)																
教科書	酒井秀樹・廣森友人・吉田達弘『実践的英語科教育法』(2018)大修館書店																	
参考書	『平成29年告示 中学校学習指導要領解説 外国語編』文部科学省 『平成29年告示 小学校学習指導要領解説 外国語・外国語活動編』文部科学省 New Crown English Series 1, 2, 3																	
成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10						
	授業内での課題への取り組み	40%																
	デモレッション	30%																
	定期試験	30%																
注意事項																		
備考																		
リンク	URL																	

担当教員の 実務経験の 有無	
教員の実務 経験	・英国出版社における英語教材開発 ・文部科学省外国語教育推進プロジェクトオフィサー
実務経験を いかした教 育内容	・産官の視点を共有し、英語教育をより多角的にとらえられるようにする